

# 花祭り灌仏会

4月8日は仏教の開祖ブツダの誕生をお祝いする日です。お寺ではこの日を「花祭り」と呼んで、色とりどりの花で飾った花御堂に置かれた誕生仏に甘茶をそそぎ、ブツダの誕生をお祝いしています。

ブツダのももとの名前はゴータマ・シツダツタといい、インドの北、ヒマラヤのふもとにあったカピラ国の王子でした。ブツダとは「真理に目覚めたもの」という意味があり、日本では釈迦族出身の尊い方という意味の「釈尊」や「お釈迦さま」と呼ばれています。

ブツダの誕生には色々な伝説があります。カピラ国の王様はスツドーダナ王といい、王妃のマーヤー夫人の出産を心待ちにしていました。というのも、マーヤー夫人が眠っている時、インドでは大切にされている真っ白な象が、夫人の右脇腹からお腹に入っていく夢を見たとき、どのような子が誕生するか期待せずにはおれなかったのです。やがて臨月が近くなされたマーヤー夫人は故郷のコーリ国に帰る途中、美しい花や池があるルンビニー園で休憩をとられたと伝えられています。

そこで、マーヤー夫人は車からおりられ無憂樹のかげで休まれていると、心地よい風が吹いてきました。風にゆれる無憂樹の花を眺めているうち、夫人はふと花にふれたくなり右手を上げたところ、急に産気づいてしまったのです。おつきの女官や医師たちは急いで床を敷き、カピラ国の跡継ぎを迎える準備を行い、健やかな男の子をとりあげたのでした。その子こそ、後にブツダと呼ばれ、教を説き人々の心を守る人物になるのでした。

ブツダが誕生されたとき、甘露の雨が降ったという伝説から、誕生仏に甘茶を灌いでお祝いするようになりました。また、ブツダは生まれるとすぐ7歩あるき天と地を指さし「天上天下 唯我独尊」と宣言されたと伝えられますが、この言葉は「自分がこの世の中で一番えらい」という傲慢(思い上がり、人を見下す態度)な意味ではありません。「すべてのいのちは天にも地にも、この世の中に一つしかない、かけがえのない尊いものである」という、いのちの素晴らしさを教えてくれるものなのです。

おし 教を残してくれたブツダに感謝し、誕生日をみんなで祝いしましょう。合掌



ことし はなまつ  
今年の花祭りは4月8日(土)におこなわれます。